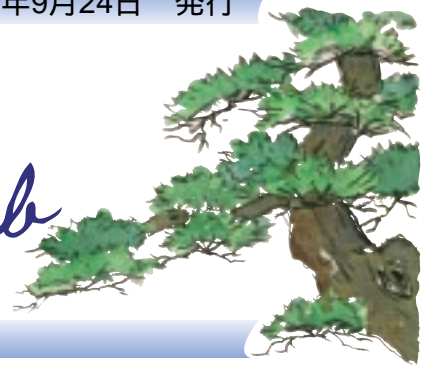




# 高砂青松 Rotary Club

The Rotary Club of Takasago Seisho, Japan



## キリスト教系 私立学校教育について

淳心学院中・高等学校 理事長・学校長 アントニオ・マルゴット神父

### 歴史的な背景

中世ヨーロッパ修道院の伝統を受けてカトリック学校のほとんどは修道会によって設立され、大学まで発展した  
(日本にもキリシタン時代のイエズス会のセミナリオとコレジオ)  
ヨーロッパではフランス革命後、国家による宗教と関係ない公立学校

### 明治時代

政府が近代化のため当初もっとも力を入れたのは  
小学校の普及(義務教育)と教員養成の充実のための師範学校  
海外から教師を招いての高等教育  
講師はほとんどプロテスタント系のアメリカ人  
プロテスタント教会は特に女子教育と高等教育  
(神戸女学院, 関西学院, 青山大学, 同志社など)  
カトリック教会はキリシタンの延長なので、最初は歓迎されなかった  
外国人居留地(横浜, 長崎など)に許可された  
フランス出身の宣教師と修道女が社会福祉事業をはじめ、学校へ発展した  
隠れキリシタンの多い九州が中心  
20世紀になってから、プロテスタントに遅れて、カトリック大学も



## 昭和前半

次第に宗教教育を自由にできなくなる

## 終戦後

新しいものを求めて全国的にキリスト教に対する関心が高まる

海外から毎年多数の宣教師が来日

ベビーブームや教育改革のため学校不足のため全国的にキリスト教系の学校が設立

カトリック淳心会は姫路城内の陸軍跡地を購入，日本本部を置く

1951年 賢明女子学院中学校（カナダの女子修道会）

1954年 淳心学院中学校 開校

キリストの教えに基づいて，女子高は新時代の女性の教養とお母さんとしての役割を，男子校は社会のリーダーになることを教育目標にしている

## 現在直面している問題

欧米の国からの宣教師がほとんど来なくなりました。修道者が学校から姿を消す中で，キリスト教に基づく教育理念，建学の精神が教師全員に受け継がれるようにならなければならない。

経営の危機

公立学校の教育費とのアンバランス

経費補助金があっても私学の人件費は全部保護者負担

私学同士の競争

少子化の中に世間の目は進学に集注するので優秀な生徒を確保するために私学同士の競争が激化

成績を上げるために共学に変わる学校が増える

教育改革 国家の監視監督の強化

未履修の問題，評価，教員免許の更新，など

## 今はチャンス

ケイタイなどで，今の子どもは人間関係がうまくできない

理由なき殺人が毎日のように報道されている。命の尊さを教える必要

だましがまかり通る時代（うなぎ，牛肉，もち米）社会倫理の低下

裕福な時代の中に 貧富の格差，物の価値観

グローバル化と国内の国際化 世界観

いずれもキリスト教の得意な分野なので，今こそキリストのことばに基づく人間教育の必要性を感じる

アントニオ マルゴット氏 経歴

ベルギー生まれ

1958年 カトリック宣教師として来日

1963年 淳心学院中・高等学校 教諭

1981年 淳心学院中・高等学校 校長

1999年 学校法人淳心学院 理事長

2002年 兵庫県私学総連合会 常務理事



Donation

## ニコニコ報告

### 高砂R.C. 坂牛 八州 会長 守光 隆 幹事

高砂青松クラブの皆様，本日はようこそおいで下さいました。本日は母校のマルゴット神父のお話が聞けるという事で楽しみにしています。宜しくお願いします。

廣瀬 明正・嶋谷 拓雄・竹原 俊三・濱中 幹雄・田水 敬雄・志方 正昭  
 岡本 崇司・増田耕太郎・鹿間 行雄・菱田 克己・大森 千里・都倉 達殊  
 中右 和宏・小西 文孝・鹿間 虹美・柿木 國夫・京谷 慎平・中谷 利幸  
 西田 光衛・庄司 武・田中 伸明・内海 薫・菊地 敬子・植杉成一郎  
 青木 裕加・渡辺 弥生・辻田 重恵・砂川 仁史

合同例会を祝して。



高砂R.C.坂牛会長  
あいさつ



高砂R.C.新世代  
丸山委員長あいさつ



謝 辞 鹿間会長



高砂R.C.よりご案内  
中野会員



高砂R.C.よりご案内  
守光会員

### プログラム予定

9月24日(水)	10月1日(水)	10月8日(水)	10月15日(水)
高砂市消防本部 【新世代委員会担当】	卓話 辻田会員 「寄付行為に伴う税額 控除について」 【米山奨学委員会担当】	クラブアッセンブリー 藤本定男ガバナー補佐 来訪	休 会 (定款第6条第1節(c) による)

## 例会記録 2008. 9. 19 (金) 通算1450回

### ソング

「我等の生業」「歓迎歌」

### 来訪ロータリ アン報告

塩澤 功 様 (姫路南R.C.)	赤穂 哲 様 (姫路南R.C.)
室田 隆重 様 (姫路中央R.C.)	中野 哲郎 様 (高砂R.C.)
西川 敏彦 様 (高砂R.C.)	信原 智彦 様 (高砂R.C.)
庄司 治 様 (高砂R.C.)	尾上 喜秀 様 (高砂R.C.)
後藤 純次 様 (高砂R.C.)	井本 雅也 様 (高砂R.C.)

### 出席報告

9月10日 会員数 52名 欠席者 8名 出席率 84.62% <修正による>  
(この内出席免除者9名)  
9月19日 会員数 52名 欠席者 16名 出席率 69.23%  
(この内出席免除者9名)

## 播磨ゆかりの偉人伝 ⑩

### 佐多 稲子 (さた・いねこ) 相生舞台の代表作を生む

「作家・佐多稲子さん生誕100周年」の記念集会在平成16年10月、相生市で開かれた。佐多稲子と相生市との関わり。昭和15(1940)年に新潮社より刊行され、ベストセラーになった長編小説「素足の娘」で、それは理解できるだろう。

本名は佐田イネ。明治37(1904)年、長崎市で生まれた。父親が播磨造船所(現石川島播磨重工業)の社員になったことから、14歳で相生市に移り、上京するまでの2年間、さらに自殺未遂を図った後の数ヵ月間をこの町で暮らしている。

「素足の娘」は、多感な少女時代を過ごしたこの相生市が舞台となっている。主人公の少女が苦しみながらも、けなげでひたむきに生きようとする姿を描いた青春文学で、自伝的要素を加えて書かれている。

佐多稲子は、主に戦前のプロレタリア文学運動を踏まえて、運動と人間の関係などを描き続けた小説家として知られている。24歳の時、「キャラメル工場から」を発表し、プロレタリア文学の新しい作家として認められた。

さらに雑誌「働く婦人」の編集にも携わり、創作活動と文化普及の運動に貢献した。戦後は婦人民主クラブの創立に宮本百合子とともに尽力。昭和37(1962)年の「女の宿」による女流文学賞を始め、川端康成文学賞、毎日芸術賞、読売文学賞など多くの受賞に輝いている。

相生市立図書館近くの中央公園に、佐多稲子が自選、自筆の文章が刻まれている文学碑が建立されたのは昭和58(1983)年である。その除幕式の日が、稲子が相生を訪れた最後の機会となった。

その席で稲子は相生について「すべてが新鮮だった。故里の懐かしさにも似た思いを抱く町です」と語っている。

(主な参考文献=神戸新聞社・編「播磨ゆかりの50人」神戸新聞総合出版センター)



会長 鹿間 行雄 幹事 岡本 崇司 クラブ会報委員長 菊地 敬子

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話 (079) 443-0500(代)